

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	社会
研究課題	<p>学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校（321人）				
所在地（電話番号）	北海道函館市美原3丁目48番6号（0138-46-2233）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/				
研究のキーワード	「単元を貫く学習課題」、単元構成表、単元間構造図				
研究結果のポイント	<p>○「単元間構造図」の作成は、授業者にとっては全体における各単元の役割を意識した単元及び授業展開に、学習者にとっては公民的分野での学習の見通しを持つことができるとともに、特に問題解決能力の意図的・計画的な育成に取り組む「単元を貫く学習課題」のために必要となる知識等の積み重ねを意識することができた。</p> <p>○学習者の問題意識に基づく「単元を貫く学習課題」の設定方法として、事前の学習者アンケートによる設定が学習者の課題に対する追究の意欲を高めた。また、課題を固定せずに再設定を認めることで、より精選された課題としていくことができた。そのため与えられた問題・課題を解決する能力だけでなく、社会的事象から自ら問題・課題を発見し、それらを追究する対象とする能力の育成を図ることができた。</p> <p>○「単元を貫く学習課題」に対する学習者の記述の変容は、学習者の学びの深まりを示すものであり、学習者の学習の振り返りのための資料とすることができた。また、この変容は、学習者の社会的事象への関心の高まりを示すものでもあり、設定した「単元を貫く学習課題」の内容及びその設定方法が適切であったかを評価するための資料とすることができた。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫・改善
～「単元を貫く学習課題」の設定に基づいた指導方法等の工夫～

(2) 研究主題設定の理由

本校では平成 25 年度に「今、求められる 21 世紀の学力の育成を目指して」という学校研究主題のもとで、これからの社会において求められる資質や能力の育成を目指した研究計画を立て、各教科における基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の工夫、開発や、その検証改善サイクルの整備を行い、一定の成果を上げることができた。しかし、言語活動を取り入れた思考力・判断力・表現力の育成を、より一層意図的・計画的に行う必要がある。

そこで、社会科（主に公民的分野）において、単元を通して追究する学習課題設定の工夫、問題解決のプロセスに応じた指導方法の検討、習得した知識や技能がどのように活用されているかの整理及びそのために求められる指導方法の検討などを通して、問題解決能力の育成を目指し、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制

本校研究部（副校長・研究部長等で構成）	
↓	
研究協議会（定例：本校全教員で構成）	← 北海道教育庁渡島教育局
↓	函館市及び渡島の公立小中学校との連携
校内研究会・教科研究会（全教科で実施）	← 北海道教育大学との共同研究
	日常の授業実践例の提示

(4) 2年間の主な取組

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本校及び渡島管内公立中学校での過去の授業実践における学習課題の整理・分析の実施 ・特に重点的に取り組む4つの単元での単元構成表の作成 ・校内研究授業（社会科第1回）「(1)私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方」の実施（7月21日） ・本校教育研究大会における公開授業の実施及び「単元を貫く学習課題」に関する参会者への提案・協議（10月30・31日） ・校内研究授業（社会科第2回）「(2)私たちと経済 イ 国民生活と政府の役割」の実施（11月19日）
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元を貫く学習課題」を貫く視点の検討・設定 ・単元間の関連を明らかにするための「単元間構造図」の作成 ・特に重点的に取り組む5つの単元の「単元を貫く学習課題」の設定方法等の検討 ・単元構成表の作成（(3)ア）・改善（(1)イ，(2)イ，(3)イ，(4)イ） ・校内研究授業（社会科第1回）「(1)私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方・考え方」の実施（9月9日） ・校内研究授業（社会科第2回）「(3)私たちと政治 ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則（新しい人権）」の実施（10月12日） ・問題解決能力の育成を見とるテスト問題の作成・実施（10月19日） ・教科研究会（社会科第1回）における公開授業「(3)私たちと政治 イ 民主政治と政治参加（地方自治）」の実施及び「単元を貫く学習課題」の実践研究に関する参会者への提案・協議（11月24日） ・教科研究会（社会科第2回）における公開授業「(2)私たちと経済 イ 国民生活と政府の役割（財政）」の実施（12月19日）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①「単元を貫く学習課題」を貫く視点の設定及び「単元間構造図」の作成

「単元を貫く学習課題」はもとより公民的分野の学習を貫く視点として、「個人の尊厳に基づく人権尊重」を設定し、現代をとらえる見方・考え方の一つとした。また「単元間構造図」を作成し、より意図的・計画的な問題解決能力の育成の実現を目指した。

（注）「単元間構造図」とは、意図的・計画的な問題解決能力の育成を目指し、貫く視点や単元間相互の関連、公民的分野における役割を明らかにするために作成したものである。

②学習者の問題意識に基づく課題の設定及び単元構成表の作成・改善と授業実践の蓄積

単元における指導目標の達成のために学習者が単元を通して追究し続ける学習課題である「単元を貫く学習課題」を、学習者の問題意識に基づいて設定するための方法を検討し実践した。また、「単元間構造図」に基づいて、単元構成表の作成（(3)ア）・改善（(1)イ，(2)イ，

(3)イ, (4)イ) を行った。

(2) 具体的な研究活動

①「単元を貫く学習課題」を貫く視点の設定及び「単元間構造図」の作成

「単元を貫く学習課題」及び公民的分野を貫く視点を、公民的分野の目標に基づいて「個人の尊厳に基づく人権尊重」と設定し、現代をとらえる見方・考え方とした。また、「単元を貫く学習課題」に重点的に取り組む単元を、「(1) 私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方」「(2) 私たちと経済 イ 国民生活と政府の役割」「(3) 私たちと政治 ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」「(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加」「(4) 私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大」の5つに設定した。このうち4つの単元の役割は次表のとおりである。

単元	公民的分野における単元の役割
(1)イ	公民的分野における「単元を貫く学習課題」に取り組むことへの習慣形成
(3)ア	個人での「単元を貫く学習課題」の設定, 「単元を貫く学習課題」を貫く視点としての「個人の尊厳に基づく人権尊重」の重点的な学習
(3)イ	小集団での「単元を貫く学習課題」の設定及び変更を行う単元の学習
(2)イ	学級での全体協議に基づいた「単元を貫く学習課題」の設定

②学習者の問題意識に基づく課題の設定及び「単元構成表」の作成・改善

「単元を貫く学習課題」とは、単元前、単元を構成する単位時間の授業末、単元の学習後に取り組む同一の学習課題であり、問題解決的な学習の展開を意図的・計画的に行うための方法としたものである。また、学習者にとっては自己の変容や高まりを実感できるとともに、授業者にとってはそれを的確に把握できるという意義を有している。昨年度は、重点的に取り組んだ4つの単元の「単元を貫く学習課題」を授業者が学習指導要領に基づいて設定したが、今年度は、学習者の問題意識に基づいた設定を検討し実践した。そのため「単元構成表」では、学習者の問題意識に基づく課題の設定のために『「単元を貫く学習課題」設定のための手立て』の欄を新たに設けた。なお、今年度に各単元で設定した「単元を貫く学習課題」は、次表のとおりである。

単元	「単元を貫く学習課題」
(1)イ	本校教員が出席して開かれた職員会議で策定された「生徒は学校内において、携帯電話やスマートフォンを所持・使用することができる」というきまりに賛成か、条件付賛成か、反対か?
(2)イ	平成32(2020)年度予算からの()に、賛成か、条件付賛成か、反対か? ※()には、「社会資本の整備を進めるために、公共事業関係費を増額する」「次世代への借金を残さないために、公債の発行を減額する」「少子高齢化に対応するために、社会保障関係費を増額する」のうち、各学級での検討を踏まえて、学級ごとに1つを設定する。
(3)ア	()は「新しい人権」として保障されるべきか? ※()には現代社会の特色を踏まえて「新しい人権」として保障されるべきと考える具体的な人権を生徒個人が設定する。
(3)イ	函館市の課題である()は、どうすれば解決できるのか? ※()には函館市における課題を設定する。

具体的には、「(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加」「地方自治」において、函館市の課題に関するアンケート調査を単元前に実施し、同一もしくは関連の強い課題意識を持つ学習者でグループを構成した。そして本単元の「単元を貫く学習課題」を、「函館市の課題である()は、どうすれば解決できるのか?」とし、括弧内にグループが検討・設定した「函館

市の課題」を当てはめて、それぞれの「単元を貫く学習課題」として設定した。また課題は単元の学習が進む中で再設定することを認め、知識等の高まりによって課題がより深まっていくことを見とることも試みた。

また、「単元構成表」では『「単元を貫く学習課題」を解決するための知識等』を、単語（例：「地方議会」「首長」）で示すのではなく、概念的な知識（例：「地方公共団体に置かれる地方議会と首長は、共に住民による選挙によって選出される二元代表制が採られており、均衡と抑制を保つ関係にある」）を示すこととし、学習者が単位時間で学習すべき事柄を明らかにした。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

- 「単元を貫く学習課題」や公民的分野を貫く視点を設定し、それぞれの単元を公民的分野において学習する意義を明らかにした「単元間構造図」を作成することによって、授業者にとっては、全体における各単元の役割を意識した単元及び授業展開に取り組むことができた。また、学習者にとっては、「単元間構造図」の配布・説明を受けることで、公民的分野での学習の見通しを持つことができるとともに、特に問題解決能力の意図的・計画的な育成に取り組む「単元を貫く学習課題」のために必要となる知識等の積み重ねを意識する資料とすることができた。
- 学習者の問題意識に基づく「単元を貫く学習課題」の設定の方法として、事前の学習者アンケートによる設定が学習者の課題に対する追究の意欲を高めるものであった。また、一度設定した課題を固定するのではなく、単位時間での学習が進み、理解等が深まっていく中で課題の再設定を認めることで、より精選された課題としていくことができた。与えられた問題・課題を解決する能力だけではなく、社会的事象から自ら問題・課題を発見し、学習課題として設定する能力の育成を図ることができた。具体的には、(3)イにおいて、当初函館市の課題やその解決策について、公と民の区別が不明瞭なものや、予算的な裏付けのないもの、根拠なく一部地域のみに対象が向けられているものなどが見られたが、単元末には、民間企業と地方公共団体との区別に基づいた取組や、歳出額の具体的な変更等を解決策として示すことができていた。また、単元構成表において『「単元を貫く学習課題」設定のための手立て』を示すことで、学習者が課題設定にどのように関わっていくのかを明らかにすることができた。
- 「単元を貫く学習課題」に対する単元前・単位時間・単元後の学習者の記述の変容は、学習者の単元の学習を通じた学びの深まりを示すものであり、学習者の学習の振り返りに用いる資料とすることができた。また、この変容は、学習者の社会的事象への関心の高まりを示すものでもあり、設定した「単元を貫く学習課題」の内容及びその設定方法が適切であったかを評価するための資料とすることができた。
- 問題解決能力の状況を見とるテスト問題の作成・実施に取り組んだが、実施回数が少なく、第三者を含めた問題の検討・評価ができなかったため、今後も引き続き問題の作成・実施に取り組んでいく必要がある。このとき、できるだけ客観性や信頼性の高い評価を可能にする問題を作成することが望まれる。
- 公民的分野における単元の関連を整理し、授業者と学習者が共有することはできた。しかし、社会科の他分野との関連及び小学校、さらには他教科との関連をも含めた計画等が必要である。その際、教科書等の紙ベースでの検討には限界があり、附属函館小学校や近隣の公立小学校等の関係者からのヒアリング調査を積極的に展開する必要がある。

(2) 今後の取組

今年度の課題点である、より簡便で汎用性の高い問題解決能力を測る問題の作成や他分野・他教科及び小学校社会科との関連を含めた計画作成に取り組む。